

【主な訳書】

1. アレクセイ・ユルチャク『最後のソ連世代：ブレジネフからペレストロイカまで』（みすず書、2017年10月）
2. デイビッド・ウルフ『ハルビン駅へ：日露中・交錯するロシア満洲の近代史』（講談社、2014年10月）
3. テリー・マーチン『アフーマティヴ・アクションの帝国：ソ連の民族とナショナリズム、1923年～1939年』（明石書店、2011年5月）

【主な論文】

1. 「ソ連の民族政策の多面性：「民族自決」から強制移住まで」宇山智彦（編）『越境する革命と民族：ロシア革命とソ連の世紀 第5巻』（岩波書店、2017年10月）、69～94頁
2. 「「邦楽4人の会」の誕生：オーラル・ヒストリの中モクワ青年学生平和友好祭（1957）」
3. 『SLAVISTIKA』第32号（2017年7月）、191～212頁〔梅津紀雄と共著〕
4. 「昭和三十年代の日ソ文化交流：林広吉と東京バレエ学校」中嶋毅（編）『新史料で読むロシア史』（山川出版社、2013年3月）、222～239頁
5. 「ロシアのドイツ人」沼野充義ほか（編）『ユーラシア世界2 ディアスポラ論』（東京大学出版会、2012年7月）、183～203頁
6. 「ツェリノグラード事件再考：「停滞の時代」のソ連の民族政策」『アジア経済』第51巻第6号（2010年6月）、24～42頁